

リンゴ輪紋病

発生生態

病徴

はじめ、果点部分に1～2mm程度の黒～黒褐色斑点が現れ、やがて軟腐症状を伴う同心輪紋病斑を生じる（写真1）。王林などの黄色品種では、病斑周辺に赤色の色素が沈着する。病斑の表面には、黒色の小粒点を形成することがある。枝では発病するといぼを生じるのでいぼ皮病とも呼ばれる（写真2）。

伝染経路

枝幹に生じるいぼ病斑上に形成される柄胞子が伝染源となる。柄胞子は、雨滴に混じって飛散し、主に果実では、果点部位や毛じ痕、枝幹部では、生育旺盛な新梢などの皮目からそれぞれ侵入する。

発生を助長する条件

果実（ふじ）では6月～8月中旬頃、枝幹部では6～7月中旬に感受性が高い。この時期に、高温多雨条件が続くと感染頻度が高くなる。



写真1 果実での発生



写真2 いぼ皮病斑

防除のポイント

- ・休眠期には、いぼ皮病斑を軽く削り取り、削り取った部位には、塗布剤を塗布する。
- ・6月以降の重点防除期間には、散布間隔の開きすぎに注意し、徒長枝や枝幹部にも十分薬液がかかるように散布する。

参考文献

- (1) ひと目でわかる果樹の病害虫—第三巻—／社団法人 日本植物防疫協会

写真提供

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所